

ホームページへの掲載		
済	月 日	掲載予定

岐阜県立可児高等学校

学 校 長 榎部 祐成
学校住所 岐阜県可児市坂戸987の2 電話 0574-62-1000

- 1 会議の名称 岐阜県立可児高等学校 学校評議員会（第2回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|-------|--------------|
| 委 員 | 大野 裕司 | (元美濃加茂西中学校長) |
| | 桂川 直人 | (岐阜県農業大学校長) |
| | 松井 慶子 | (元本校PTA役員) |
| | 松尾 和樹 | (NPO 縁塾代表) |
| | 吉田 竹彦 | (坂戸地区自治会長) |
- 学 校 側
- | | |
|--------|---------|
| 榎部 祐成 | 校長 |
| 井藤 勝夫 | 教頭 |
| 今枝 弘幸 | 事務長 |
| 伊左治 錦司 | 教務主任 |
| 岩島 章雄 | 生徒指導主事 |
| 金本 淳 | 進路指導主事 |
| 竹中 俊文 | 教務部・記録係 |
- 3 会議の目的 学校運営について、保護者や地域住民から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成31年2月1日（金） 14:30～16:30 可児高等学校 校長室
- 5 会議の概要
- 授業参観・校内見学
 - 学校長挨拶
 - 議題
 - 教育に関する年間数値データについて
 - アンケート結果について
 - 各分掌より
 - 教務部
 - 進路指導部
 - 生徒指導部
 - その他
 - ご提言・ご感想等
 - その他
- 6 ご提言・ご感想等

(1) アンケート結果について

- 意見 1 学習塾の必要性を感じている生徒・保護者が多いのが気になる。
- 意見 2 学力の2極化が進んでいるそうだが、その原因は何か。
- 回答 学習塾の必要性については「よくあてはまる」と「まったくあてはまらない」の数値がともに増えていることから2極化が進んでいると分析している。定員充足率の低下

や他地区への流出が主な原因と考える。日々の授業はもちろん、週末の課題や毎日の小テストなどで学力の底上げを図りたい。

- 意見 3 体育大会・文化発表会の満足度が低い。文化発表会に対する満足度が低いということだが、生徒と会話するなど改善の方策を考えてほしい。
- 回答 生徒会と「校長先生と語る会」を定期的実施している。生徒会自身も目安箱を設置し、生徒の意見を広く集めている。生徒の意見を聞き、取り入れるべきことは取り入れていきたい。

(2) 生徒指導について

- 意見 1 世間はいじめに敏感になっている。いじめだと思わず行ったことがいじめと受け取られるケースもあると聞く。このような場合は、被害者だけでなく、加害者へのケアも必要なのではないか。
- 回答 定期的な調査等により、被害を最小限に留めたり単発で終わらせたり早期対応ができています。教育相談係が話を聞き、必要に応じてスクールカウンセラーを活用するなど胸の内を聞くことに注力していきたい。
- 意見 2 交通事故がこの地区で起きてはいけない。安全確保のために毎日、交差点等に立っているということだが、大変な努力と負担が伴うことで頭が下がる思いである。今後も続けてほしい。
- 意見 3 運転者とのアイコンタクトや止まってくれた運転者に対する会釈などを指導しているということだが、地域のドライバーの意識も変えていく必要があると感じた。

(3) 進学指導について

- 意見 1 新入試に関する情報はどのように共有しているか。
- 回答 不確定な要素が多く、発表の度に二転三転することも多い。該当の1学年を担当している教員には随時提供しているが、全職員に対しては職員会議などで進路指導主事より定期的に伝え、情報を共有している。保護者に対しては、PTA総会や学年懇談など集まってくれ度度情報提供している。
- 意見 2 宅習記録の提出率や記入率はどうか。生徒と教員をつなぐ大切なツールであるので大いに活用してほしい。
- 回答 学年が上がるに従って下がる傾向はある。考査前には宅習時間調査のために全員に提出を課し、提出率のキープを図っている。今後も活用を続けるとともに手帳を使い、スケジュール管理させていく。
- 意見 3 自分の進路をみつけることが大切だと思う。やりたいことをみつけたときの力は絶大なものがある。みつけさせる指導をお願いしたい。
- 意見 4 世間の変化が激しい中でよく対応できていると感じた。特に、保護者に対する呼びかけや取り組みが増えていると感じる。父母ともに働いている家庭が多く、学校との接点が少なくなっている保護者が多くなっているが、その分、学校や進路に関わる情報は欲しいと感じている。更なる対応を望む。
- 意見 5 新入試にはメリットもあればデメリットもあるはず。中立な立場で判断して、社会に通用する人間を育ててほしい。
- 意見 6 新入試に伴い、現在の2、3年生で浪人することになる生徒への対応が大変そうである。卒業後も連絡を密にとり、力になってあげてほしい。
- 回答 現在も浪人生とは継続的に連絡を取っている。また、大手予備校とも連携し、浪人している卒業生の情報を提供してもらっている。今後も継続していく。

(4) その他

- 意見 1 いつも通り安定した様子であり、一生懸命な子ども姿に安心した。素直で穏やかで落ち着いた生徒が多いと感じた。少子化による子どもの変化はこれからも続いていくが、可児校なら心配ないと感じた。
- 意見 2 82戸、20法人からなる坂戸地区だが、老人会には136名が在籍している。高齢化が進む中、可児高生が活力を与えてくれていると感じている。
- 意見 3 小中学校と高校とのつながりができているのかが心配である。連携の場が必要ではないか。
- 意見 4 「エンリッチ」の活動をしている松尾氏など、可児高校の様子をよく分かっている人が中学に発信していくのもよい方法なのではないか。
- 回答 夏のオープンエンリッチには、この地区だけでなく全国から50名ほどの大学生が集まってきており、高校生に対する活動にこれだけの人数が集まることは珍しい。外部からの評価が上げることで高校の評価もあげていきたい。

6 会議のまとめ

授業参観、校内見学では、落ち着いた雰囲気と安心感のある学校であるとの評価をいただいた。また、学習や進路の指導、生徒指導などを始めとする教員の指導や学校の取り組みについても好意的で高い評価をいただくことができた。それと同時に多くのご意見をいただいたので、高評価をいただいた取り組みは今後も継続し、改善すべきを改善することでさらに高い評価をいただけるようにしていきたい。

今回は、2年後から始まる新しい入試制度に対する質問やご意見を多くいただいた。常に最新の情報を手に入れつつ、生徒や保護者に分かりやすく伝えていくことの必要性を感じた。情報に振り回されることなく、見通しを持って進路指導に当たらねばならない。